

④教員養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

中国学園大学

【現代生活学部人間栄養学科】

栄養教諭として必要な食や栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、教員としての基礎的・基本的な知識・技能や資質能力をもつ人材の養成に教職員が連携し、きめ細かい指導を行っています。

社会で輝ける豊かな人間性の育成のために、ゼミ活動やボランティア活動等を通して幅広い視野のもてる教育を行っています。

また、食に関する指導と学校給食の管理について、実践的指導力を身に付けるために、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業により、実際の教育現場での学びを深める指導を行っています。

【子ども学部子ども学科】

教養教育科目及び専門教育科目にアクティブ・ラーニングを導入し、学修者による主体的な学びの中で、優れた保育者・教育者になるための幅広い教養と、専門的な知識・技能を養います。

地域の保育所、幼稚園、小学校、公民館等と連携し、「子ども学の探求」「子どもの理解」などの6つの専門領域の科目に、保育や授業の見学、体験などを積極的に取り入れ、子どもを取り巻く多様な問題に対応できる問題解決力を養います。

模擬保育・授業や保育・教育実習等における実践を振り返り、省察することを通して子どもの最善の利益を実現できる努力を続ける態度を養います。

【大学院 現代生活学研究科人間栄養学専攻】

現代生活学研究科人間栄養学専攻では教員養成の質向上を目指して、次のような取り組みを行います。

(1)実践的指導力の養成（教育実践力の向上）

・学校現場と連携した長期実習の導入

既存の教育実習に加えて、本学の附属こども園との連携を通じた制度を導入し、指導計画の作成・授業実施・給食指導などに継続的に関わらせてます。

・模擬授業・ロールプレイングの強化

食育指導・個別対応・保護者対応などを想定した模擬授業やケーススタディに取り組みます。

・ICTを活用した授業づくりの指導

デジタル教材・映像教材・オンライン食育コンテンツの作成演習など、次世代の栄養教諭に求められるスキルを反映します。

(2) 高度な専門知識・研究力の涵養

・現場課題に基づく「実証型研究」

児童生徒の食習慣・アレルギー対応・食育の効果測定など、教育現場での実際の課題をテーマとした演習を行います。

・他領域との融合研究

神経科学、心理学、教育学、公衆衛生学など、複合的視点をもったテーマ設定と指導体制があります。

・学会発表・論文化の支援

食育・学校給食に関する実践研究や調査結果を学会で発表・論文化し、成果を社会に還元します。

(3) 教育の質保証・改善体制の確立

・FD (Faculty Development) 活動の強化

教員が授業改善・評価手法・教育効果測定に関する研修や検討会を実施します。

【大学院 子ども学研究科子ども学専攻】

子ども学研究科における教員養成の目標を達成するために、次のような教育の質の向上に関する取り組みを行います。

(1) 保育・幼児教育分野、小学校教育分野での高度な専門性の獲得

「保育・幼児教育コース」では、幼児の発達や学習理論、保育方法など、幼稚園教育に関連する幅広い専門知識を提供します。また、「学校教育コース」では、各教科等の学習指導を充実させるのに必要な幅広い専門知識を提供します。さらに、修士論文の研究を通じて、特定の専門領域に深く切り込んだ研究を行う機会を提供します。

(2) 保育・幼児・小学校教育実践の課題解決とイノベーション:

実践記録の講読やケーススタディ等を通じて、実践的なスキルを磨きながら、保育・教育の現場での課題に取り組みます。また、修士論文の研究を通じて、新たなアプローチやイノベーションを提案する能力を育成します。

(3) 保育・教育研究における倫理観と社会的責任:

倫理教育プログラムを導入し、保育・教育研究における倫理的な問題や社会的責任について学びます。修士論文の研究においても、倫理的な観点から問題を考察し、社会への貢献を意識しながら研究を進めます。

(4) 保育・教育研究の深化と実践への応用:

「子ども学特別研究」では、修士論文作成へ向けて保育・教育研究の基礎から応用まで幅広く学びます。修士論文の研究を通じて、最新の研究成果を理解し、実践への応用力を養います。また、TA (ティーチングアシスタント) 等を通じて、研究成果を保育・教育実践場に反映させる方法も修得します。

【保育学科】

乳幼児一人ひとりに応じた指導や保護者に対する支援ができる実践力を有した保育者の育成を図るため、以下の取組を行っています。

(1) 基礎教育の充実

入学前、入学直後に保育者としての基礎を培うため、ピアノ1日講座・入学前課題学習・保育者基礎演習などで、ピアノや絵本等の保育教材に触れたり保育現場で幼児と直接に関わったりする体験を行っています。

(2) 実践力の充実

乳幼児を保育する力と保護者の子育て支援に対応する力を培うため、子育て支援演習等の授業を充実させ、学内で乳幼児と関わる機会をもっています。また、子育てカレッジなどの課外活動を一年間に5回以上実施し、地域の親子とも交流を深めています。

(3) 即戦力の充実

卒業後、現場で即戦力となるためには、実践力に加えて社会的課題に対応する知識や技術が必要であるので、子どもに対する性の健康教育や特別に支援を要する子どもへの対応等の特別講義を行っています。